

## 呑川レポート 2014-16

### ボラの大量遡上-4(狩猟圧力を乗り越えたボラたち)

この「呑川レポート」は、専門家の方も読まれています、  
「市民目線」を絶対忘れてはいけないと思っています。  
特に気をつけているのは、「言葉だけで説明する」「言葉で押しきる」  
ことが無いように気をつけています。

フォトエッセイ形式をとっている以上、出来れば「言葉は  
写真の説明だけ」にしたいのです。  
実は、その1枚の写真を撮るために、何回も現場に出掛け、時間を掛ける  
ことが面倒になって、「言葉で押しきりたくなる」ことがあります。  
そのたびに、自分の怠惰さや、うまく撮れない撮影技術の未熟さを感じ、  
イヤになる事があります。

----ボラの大量遡上(その4:「狩猟圧力」を乗り越えたボラたち)----

今回の「ボラの大量遡上」では、ボラが「仲之橋」付近の「段差」下に  
とどまり、なかなか上流側に遡上しないので、気がかりな状態が  
続きました。

「遡上」を押しとどめる、何か特別の理由が潜んでいたのでは  
ないかと思ったのです。

その第一は、野鳥たちの「狩猟圧力」です。

#### (4-1) 「狩猟圧力」を加えるサギの仲間



「呑川」にやって来たボラを狙って、コサギやアオサギ、カワウなど多くの野鳥が集まってきました。



とりわけ「コサギ」は、いつでも仲之橋「段差」上に陣取ります。



「段差」下には、こんなにもボラが集まっているのですから、無理ありません。





実際、ボラたちはシラサギの仲間が近づくと、怖くてすぐに逃げ回ります。



とりわけ、今回は「ボラ」が大量に遡上しましたから、やって来たコサギやアオサギに、こんな風にパニック状態になった様子があちこちで見られました。

野鳥たちの、こういう「狩猟圧力」に出逢うと、キバもツノも持たないボラたちは、ひたすら逃げるしかありません。

ですから、私は、ボラが「段差越え」をなかなかしないのは、コサギが「段差」上に陣取り、「狩猟圧力」を掛けているのが原因と思ったのは、ご理解いただけると思います。

さて、こんどは「段差」の上で、コサギがどんな「狩猟圧力」を掛けているのか、観察することにしました。



ボラが昇って来たら、運悪くコサギの目の前、ビックリして身体の動きが止まります。



ボラが身体の動きを止めれば、「段差」から流れ落ちる水の勢いに、落ちてしまいます。



こうして「段差」下の「深み」に、ボラは戻されました。





もちろん、ボラは逃げるように泳いで行きます。  
とても怖かったのだと思います。



今度も、「段差」を昇ったら、目の前にコサギのクチバシ、  
ボラはビックリして、大きくのけぞります。



極度な緊張を受け、もちろん、ボラは流れ落ちてしまいます。  
どんなに大きなショックを受けたことでしょう。

こんな風に、ボラたちはコサギに気づけば、驚いて逃げ去って  
しまいます。

大きな「狩猟圧力」を受けているのです。

(4-2)「狩猟圧力」から逃れたボラたち

しかし、ボラたちはコサギの「狩猟圧力」にひるみ、逃げているだけではありませんでした。



このボラは、コサギがいるとも気が付かず、「段差」上まで上り詰めました。



ところが「段差」上でコサギに気づき、もう戻ることも出来ません。ボラは、再びバシャバシャと水を跳ね上げ、大慌てで前に進みます。





ボラは、コサギから逃げるように向きを変え、離れながら泳ぎ去りました。でも、このボラは「段差越え」に成功し、上流に向かったのです。思わぬ成功を見て、こういうこともあるのかとビックリしました。そして、また成功例が見られないかと期待して、観察を続けることにしました。



この元気なボラは、コサギの目の前を勢いよく逃げ切りました。



こんどは、2匹同時に逃げ切りました。



コサギは攻略場所を変えて、ボラを狙いましたが、ここでも2匹同時に逃しました。



こういう姿を見ると、コサギはただボー然として、眺めているだけのように見え、マヌケでとんまのだけのように見えてきます。しかし、そうではないのです。



この写真のシャッタースピードは、1/125 sec です。

つまり 8mS の短い時間です。

この時間で、ボラは段差下から段差上まで移動しています。

まさにあっという間の時間で、実はボラの「段差越え」に気が付いてシャッターを切っても、ほとんどが手遅れで、ボラが通り過ぎた後の写真ばかりなのです。

つまり、ボラが写っていないのです。

私はこの「段差越え」で、1000枚を超えるシャッターを切りましたが、ボラが写っていたのは、50枚程度でした。

「段差」のどこで昇るか判らず、カメラをあちこちへ振り回していたので、ピンぼけも多く、結局はこうして皆さんにお見せ出来るのはたかだか20枚前後なのです。



これはコサギにとっても同じことなのだと思います。

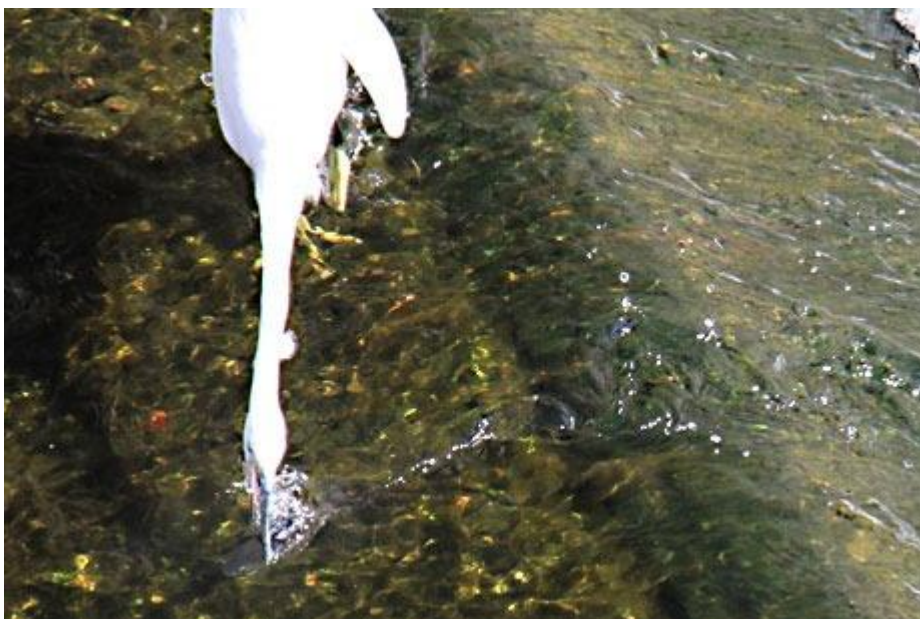
コサギがボラの遡上に気が付いて、そこに移動したり、クチバシを伸ばしたりするまもなく、ボラは猛スピードで「段差越え」を  
してしまうのです。

ただただコサギはボー然とし、悔しい思いをしているのでしょう。

しかし、コサギの名誉のために言いますが、ただマヌケでとんまな  
だけではありません。



ボラの「段差越え」の動きに合わせて、コサギも動きます。



見てください。

コサギは首を伸ばして、みごとボラをくわえたのです。

うまくタイミングさえ合えば、こうしてボラを逃がしてばかりでは無いのです。

たしかに、コサギの「狩猟圧力」は大きく、ボラはそれにおびえ、「段差越え」に失敗したり、逃げ回るものが沢山いました。

でも、勇気をふるって、ボラは「段差越え」を執行し、コサギが追いつかない猛スピードで逃げ切る姿も、少なからず見られたのです。

自然界における生きものたちの姿は、本当に厳しいのを肌感じます。

しかし、こうしてやっと「段差越え」をしたボラたちに、次の試練が待っていたのです・・・(次回に続く)

-----  
(当面の日程)

2014/7/29 (火) 「東京都の川を考えるシンポジウム」 13:30 都民ホール

2014/8/1 (金) 洗足池図書館「呑川講座」大田区報掲載・募集開始

2014/8/9 (土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校

2014/8/20 (水) 「呑川ネット・定例会」 10:00 生活センター・講座室

2014/9/13 (土) 洗足池図書館「呑川講座」第1回スタート(連続5回講座)

2014/9/18(木) 「呑川の会・定例会」 10:00 洗足池図書館・多目的室  
-----

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com  
-----